# 学校法人 村上学園 村上学園だより

二〇二〇年（令和二年）三月三十日 発行
発行元(発行責任者)
学校法人村上学園 法人事務局
参事(広報担当) 寺 川 誠
東大阪市西堤学園町三－一－一
電話 〇六-六七八一-二四四四
URL https://www.murakamigakuen.jp/

三学期は別れの季節。村上学園では、先陣を切り、それまでの寒さも緩み暖かな日差しが降り注ぐ二月二〇日（木）、東大阪大学柏原高等学校の令和元年度卒業証書授与式が行われました。次いで、二二日（土）には東大阪大学敬愛高等学の卒業証書授与式が挙行されました。

三月一七日（火）には東大阪大学附属幼稚園の令和元年度修了式が、また翌一八日（水）には東大阪大学・東大阪大学短期大学部の学位記授与式が行われましたが、新型コロナウィルスの感染拡大を抑制するため、全国の学校園同様、国の要請に基づき、式を簡素化するとともに参加者を制限する手立てを講じながら、健康に配慮した形で式を執り行いました。卒業園児・学生並びに保護者の皆様には大きな節目の行事にもかかわらず、また伝染性疾患の抑制のためとはいえこのような措置をとらざるを得なかったことを大変残念に思います。卒業（園）生は、新型コロナウィルスに負けないくらい、元気に卒業してもらえたと思います。

## 東大阪大学敬愛高等学校卒業証書授与式の様子

２月２２（土）、第７２回卒業式が挙行されました。卒業生の答辞、卒業の歌では、別れを惜しむ卒業生の思いが、式場を拍手と感動の渦に包みました。最後のホールルームでは、卒業生一人一人に卒業証書が手渡されました。卒業生からも担任の先生に色紙や花束を渡し、感謝の気持ちを伝える光景が見受けられ、３年間の集大成となりました。３年生の皆さん、卒業おめでとう！これからの活躍を期待しています。東大阪大学敬愛高校はいつまでも君たちの母校です！　（東大阪大敬愛高校HPより）

## 東大阪大学柏原高等学校卒業証書授与式の様子

２月２０日(木)、東大阪大学柏原高等学校では第５５回卒業証書授与式が挙行されました。窓から差し込む日差しがまぶしいアリーナでたくさんの方々からの祝辞と後輩からの送辞を胸に、221名が巣立ちました。式後のスライドショーでは、3年間を振り返り、懐かしくもあり、ちょっとだけ寂しい想いもこみあげてきましたが、最後は男子校特有の笑顔あふれる式となりました。

最後のクラスホームルームは、保護者も見守る中、最後の別れを惜しみました。優等生で卒業していった人、クラブで輝かしい戦績を残した人、たくさん先生を困らせた人、みんな笑顔で卒業しました。それぞれの道での活躍を期待しています。東大阪大柏原高校はずっと母校です。卒業、おめでとう！　（東大阪大柏原高校FBより）

## ご卒業（園）おめでとうございます

## 東大阪大学・短期大学部学位記授与式の様子

３月１８日（水）、東大阪大学・東大阪大学短期大学部学位記授与式が挙行されました・新型コロナウィルスによる健康被害防止対応のため、出席者を卒業生と教職員に絞るとともに、換気を良くし、式の時間を短縮する等、従来の授与式の規模縮小を図りました。このような対応策をとらざるを得なかったことを残念に思います。卒業生生の皆様には、４月から、今まで学んだことを、それぞれの進路先で活かしてくれることを期待いたします。ご卒業、おめでとうございます

## 東大阪大学附属幼稚園修了式の様子

３月１７日（火）、園関係者のみでの修了式を行いました。できる限りの準備をして、当日を迎えました。練習を予定していた３月の登園ができなかったので、言葉も予定通りにはいきませんでしたが子どもたちは、今できる精いっぱいを出し切ってくれました。

お別れの式では、『思い出のアルバム』を歌いながら、３年間の思い出を映像で振り返りました。式後は、各部屋に戻り、担任の先生から修了証書を手渡しで受け取りました。最高の門出になったことと思います。このような状況でも修了式を行えたこと、みんな元気に参加できたことを幸せに思います。この日、卒園した８７人の子どもたちに明るい未来が待っていることを心より願っております

学園のシンボルの鹿(3/16撮影)

☆紙面案内

１面：ご卒業（園）おめでとうございます
：「あんしん」のたわごと
２面・３面：特集
東大阪大学・短期大学部
「卒業研究発表会」
３面：「あの人　この人」
４面・５面：特集
「Murakamigakuen Art Gallery⑥」
６面：年長組最後の参観日
：編集後記

## 「あんしん」のたわごと ③
### ～生徒から学ぶもの（私の経験から）～

授業における「重い沈黙」（または「さわがしさ」）は教師も生徒もつらい。

授業がうまくいかない時、これほど苦労して事前に研究して、いろいろ展開も考えたのに、さっぱり反応してくれないし、のってもくれない時、生徒を恨みたくなったり、その原因を生徒に求めたい気持ちになるものです。

教師からの授業の流れや問いかけを精いっぱい考えて生徒に対したのに、じっとうつむいたままの生徒、ざわついている生徒たち、教師のいら立ち、重い沈黙が教室に流れます。何とも言えない教師の辛さを感じるものです。教師だけではありません。生徒も恐らくいやな辛い思いでいるに違いありません。生徒もできたら教師の問いに元気に答えたい、期待に応えたい、自分を表現したいと考えていると思います。

でも、教師の話題・発問・指示や助言が、生徒の思考を促すのに的確な方向がないものですから、自己表出の術がないのです（できないのです）。無言の中に「先生、もうちょっと勉強して私たちの勉強にたる話をしてくれ」と言っているのです。子どもを無言にし、自分も授業の中で辛い思いをしているのは、「指導力の貧しさにある」ことを、生徒は語っているわけです。そんなことが分かった時、「生徒から学ぶ」という言葉が分かってくるものです。

授業の中の沈黙（ざわめき）の辛さは、生徒の教師への評価であり批判であります。それを、どれほど敏感に感じ取れるかということが、教師の資質や力量を肥やす基盤になります。沈黙（ざわざわも）のつらさから逃げるため、低いおざなりで形式的に流す授業、そして教師に飼いならされた生徒たちになっていることがないだろうか。もの言わぬ生徒、もの言う生徒、ざわざわ生徒の様々な言動の中から、その本質的な意味を読み取れることが大切だと思うのです。

生徒の前に立つことは恐ろしい、教えるということは、教え方の上手下手といった、いわば意識し計画し結果だけうまく生徒に伝わっていくのではなく、教えようとしなかったもの、教えたくないものまで含めて、生徒は先生の人間性すべてに対し鋭敏に反応するものであります。（教師より苦労している生徒たちもいます）ですから、あらゆる創意を傾けて生徒たちに接しないと、生徒は聞きもしないし、学んでくれもしないでしょう。

（故 岡﨑安伸先生の遺稿より）

# 令和元年度　卒業研究論文発表会　開催

## ～　東大阪大学・東大阪大学短期大学部　～

令和二年一月末から二月初旬にかけ、東大阪大学・東大阪大学短期大学部で卒業研究論文発表会が学部学科毎に、順次開催されました。

**①一月三〇日（木）午前九時より、東大阪大学こども学部こども学科の学生三八名による卒業研究論文発表会が行われました。四年間で学んだ「こども学」の知識を活かし、学生一人ひとりが自由な着眼点で研究した論文を発表しました。研究テーマとして、今日の子どもを取り巻く社会環境を反映したものが多く、「児童虐待」「発達が気になる子ども」「ＳＮＳやスマホなどの情報通信社会の課題」等、多岐にわたっており、令和の時代を生きる子どもたちに関わる問題が数多く発表されました。発表された研究テーマは、次のとおりです。**

○石川友維：「子どもにとっての遊びに含まれる学びの要素とは」
○今田光来：「『ズートピア』ジュディとニックの生き方　～偏見や差別の中で生きる・その中で変わる心境～」
○岩崎宝音：「映画『ライオン・キング』『ライオン・キング２』における親子関係」
○逢坂友利子：「人はなぜＳＮＳに投稿するのか」
○大島　蓮：「環境政策の変遷と現代の課題から次代のビオトープへの提言」
○大濱茉由：「不登校児における学校側の支援の現状と学校以外の選択　～学校に行かなくてもよいということ～」
○岡野紗季：「なぜ『おかあさんといっしょ』（ＮＨＫ）が続いてきたのか　ー時代の変化から見る教育番組ー」
○尾崎野々花：「ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』の世界　～言葉遊びと人物の個性～」
○小野和基：「自己肯定感を築くためには　ー高垣忠一郎の文献を基にー」
○角間　瞳：「ありのままの自分を見つめなおすための自傷行為　～生野照子『リストカットの向こうへ』を中心に～」
○鎌塚正太：「働く親が望む保育施設のあり方の一考察」
○北野貴也：「虐待の連鎖をなくすための具体的な支援を探る」
○木村菜摘：「為末大のエッセイを読み解く　～陸上競技から導く思考とは～」
○木村　光：「保護者への望ましい対応とは　～園、保護者の模索～」
○原田大司：「Society5.0の実現に向けたSTEM教育の検討」
○島田茉実：「J.M.バリ『ピーター・パン』に見る『子ども観』」
○島津　唯：「科学技術の進展による資源・エネルギー開発の影響」
○下山水稀：「ソクラテスの『対話』について の研究」
○杉浦綺希：「筒井頼子・林朋子の絵本　～物語と絵本とのかかわり～」
○澄川　静：「こどもの貧困　～子どもから失われるもの～」
○高野直輝：「ゲーム依存とその影響について」
○鶴元健太：「教員の多忙化を解消するための具体策」
○豊田　旭：「発達障害についての一考察」
○中島虹穂：外見ではわかりづらい障がい　～視覚障がいに着目して～」
○平井千智：「砂場遊びが子どもの発達に与える影響」
○平城涼佳：「児童虐待の現状・問題点と虐待防止に必要な法制度とは」
○藤島一樹：「運動遊びを通して育つ子どもの体と心」
○藤井智大：「ホースセラピー（乗馬療法）について」
○廣中稜友：「ＳＮＳいじめにおける支援について」
○古井凌太：「音楽がもたらす人への効果」
○古村志遠：「触法障がい者の支援」
○新宮誉明：「子どもにおけるゲーム依存症の実態と更生プロセス」
○中尾太郎：「人が成長するとは　～自分の成育歴をもとに考える」
○宮川正夫：「発達が気になる子どもへの遊びを通した支援とは」
○柳原　鈴：「乳幼児期におけるアタッチメント形成　～遊びの場面に着目して～」
○山内菜緒：「小さないのちを救う『こうのとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）』」
○山本　秀：「ひとり親家庭の支援」　以上

こども学部こども学科卒業研究発表会の様子(東大阪大ＨＰより)

**②一月三一日（金）午前九時より、東大阪大学短期大学部実践保育学科学生による研究発表会が開催されました。「困難をかかえる子ども達」を研究テーマに各ゼミ毎の研究発表が行われました。各ゼミの研究内容は次のとおりです。**

**○乾ゼミ**（黒川・黒田・辻・宮地）：**「子どもの貧困と教育」**
「貧困」と「虐待」や「障がい」との関係性が指摘されており、この関係性を深く知り、「こどもの貧困」に対して何ができるのか、特に保育者にとって何をすべきかの調査研究

**○大矢ゼミ**（稲田・上田・中野・吉永）：**「外国にルーツを持つ子どもたちの現状と課題」**
外国にルーツのある就学年齢の子どもは約十万人、うち1万人は不就学児で、この子たちの現状と今後における課題を調査し、支援策を考察する研究

**○野々村ゼミ**（石井・乾・杉・塚田・中谷・濱田）：**「虐待と非行について」**
従来家庭という私的な場に法律が介入することは、はばかられるものだった。しかし子どもの生命が危機に陥る場合が増加し、積極的に法律が介入せざるを得ない状況になってきた。「児童虐待防止法」の制定がその最たるもので、子どもたちをどう「処遇」すれば問題の解決に役立つのかを考察する研究

**○篠原ゼミ**（井上・今井・角・佐藤・橋本・山熊・渡邉）：**「より多くの子ども達が楽しめる音楽活動」**
音楽を通して自分の気持ちを表現したり、コントロールしたりする力を身につける「きっかけ」をつくることができるようになることを期待し、どのように働きかけていけば良いか、子ども達が楽しめる楽器や音楽作り、演奏について考察する研究

**○西木ゼミ**（荻野・中山・広田・堀川・宮森）：**「テレビアニメに見る現代のいじめ」**
子どもが良く視聴するアニメで、いじめがテーマとなっているストーリーから、いじめに対してどのようなセンスを磨こうという視点で、言葉かけ等、行動が適切な配慮なのかを検討する中で、アニメでのいじめ解決策と行政が行っているいじめ対策との比較を行い、現在のいじめ対策に足りない点を考察し、新対策を提案する研究

**○野﨑ゼミ**（伊藤・北出・林・藤原・松田）：**「『子どもの困り感』に寄り添う ⇩ 保育者としてのセンスを磨こう」**
子どもにとっての困難（「困り感」）は、その原因や状況、影響等、千差万別である。少しでも子供に寄り添うために、実体験（今回は視覚を遮ることを中心とした状態の体感）で課題意識を深め、現場での配慮や想いを調査・考察する研究

**○野尻ゼミ**（北川・木下・冨岡・友田・早崎・三谷・佐藤）：**「幼・保等で友達と群れあって遊べない子どもの分析と指導の手当てを探る」**
園児が主体的に遊んでいる自由遊びに焦点をおき、園児の（困っている）様子を観察し、これらを克服することが困難解消の一助になるという視点で、言葉かけ等、その指導の在り方を考察する研究

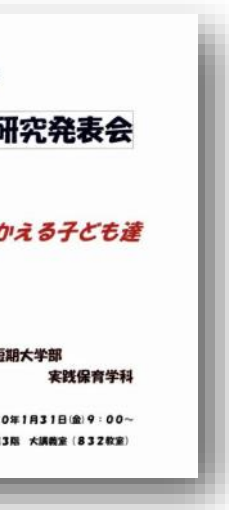
**○池澤ゼミ**（東・内田・宮本）：**「ダウン症の現状と課題について」**
ダウン症の子どもたちが、少しでも楽に生活できるように支援の仕方を考え理解してもらい、子どもに合った支援の仕方を調査・考察する研究

**○後藤ゼミ**（池住・木村・竹本・中西・中村・西村・羽田）：**「さわる絵本製作」**
ボランティア活動の経験で得たことを活かし、視覚に障がいのある子どもだけでなく、障がいのない子どもにも共通した喜びを感じてもらえる「さわる絵本」の制作研究

**○桒田ゼミ**（尾上・関・西尾・原田・松山・山下）：**「児童虐待防止のために　今、私たちができることは」**
児童虐待防止について考えるとき、まず現状を把握するために、子育て支援総合センターを訪問し、子どもや保護者とのかかわりを教えてもらうことにする。また虐待件数が増加する中、法律改正という動きがを知り、自分たちでできることから始めようと研究の糸口を見つける行動を起こし、深めていきたいと考えた。

短期大学部実践保育学科卒業研究発表会の様子（東大阪大ＨＰより）

**③二月三日（月）午前十時より東大阪大学短期大学部実践食物学科学生による研究発表会が行われました。テーマには、実践食物学科ということもあり、商品開発に関するレシピ等の発表が多数あり食欲をそそるものでした。研究発表のテーマは以下のとおりです。**



「ひが大選手村×令和元年」：この献立１食で、男性の一日のビタミンDの摂取目標量の5倍以上を摂取可能だそうです

多彩なレシピカードが配布されました。

一分しか紹介できないのが残念です！

## 東大阪市 連携六大学 公開講座

## 講演「再生医療とモノづくり技術」 源 伸介 教授

令和二年二月九日(日)、東大阪市男女共同参画センター・イコーラムにおいて、東大阪市教育委員会主催 東大阪市連携六大学公開講座」が開催されました。本学からは、源 伸介教授(地域連携推進センター産官学地域連携室長)が「再生医療とモノづくり技術」について講演を行いました。当日は、事前に申し込みのあった受講希望者が多数参加。一般の聴講者にはＩＰＳ細胞による再生医療の現状を中心に解説。また、モノづくり企業の方には再生医療に必要とされている技術や近畿経済産業省設置の関西再生医療産業コンソーシアム」の情報などを紹介し、再生医療分野への参入するための情報を提供しました。聴講された方は、教授の講演を熱心に耳を傾け、質疑応答の時間にも多くの質問がありました。

東大阪大学短期大学部実践食物学科卒業研究発表会の様子(東大阪大ＨＰより)

【実践食物学科研究テーマ】

○有志（英・森）：「喜ばれる大量調理向けレシピ開発と演出方法」

○濱田ゼミ（椙松・井上・鍛治）：「アイスプラントの特徴をを生かしたレシピの考案」

○濱 田 ゼ ミ（畑 中・福 島・藤 田・山本）：「フィンガーライム様球状ゼリーの調製」

○山下ゼミ（草村・五反田・古根）：「産学連携による大阪産(もん) 農産物を活用したレシピ開発」

○山下ゼミ（上谷・川西・仲内）：「女子アスリートを対象とした栄養調査と食事提供」

○山下ゼミ（黒田・廣瀬・三國）：「子育て中の女性を対象とした骨密度調査」

○冨田ゼミ（于・LE VAN TRUONG・黄・蘇・NGUYEN THI XUYEN）：「風変わりギョウザ」

○冨田ゼミ（于・LE VAN TRUONG・黄・蘇・NGUYEN THI XUYEN）：「刃物の歴史・包丁作り体験」

○源　ゼミ（鈴木・藤本）：「地域の特産品を使った商品開発 ～カラフルたこ焼き～」

○源　ゼミ（山﨑祐輔）：「地域の特産品を使った商品開発 ～黒豆ドリンク～」

○源　ゼミ（片山・永島・山内）：「地域の特産品を使った商品開発 ～オカワカメ～」

○松井ゼミ（塩崎・高松・森・薦田・英・花谷・山田）：「災害時における簡単レシピ開発」

○松井ゼミ（薦田・英・花谷・山田・塩崎・高松・森）：「食用昆虫の啓発活動及びレシピ開発」

○岡本ゼミ（新井・薦田・小山田・川崎・高垣・硲）：「梅酒の梅の実を再利用したスイーツの開発」

道の駅「奥河内くろまろの郷」とのコラボ食品：「バターナッツかぼちゃコロッケ」

～源 教授のプロフィール～
（東大阪大学ＨＰより抜粋）

○主な担当科目
食品学概論　食品学実習

○専門分野
機能性食品　産学官連携

○研究テーマ

1.「葉酸の認知向上・摂取推奨活動の推進」：葉酸は胎児の「二分脊椎症」をはじめとする、神経管閉鎖障害の発症リスクを低減する栄養素であるが、日本では葉酸の摂取・認知の遅れから二分脊椎症の発症は増加傾向である。この解消のために栄養学の立場から葉酸摂取の重要性について、広く情報を発信していく活動を行う。

2.「産官学連携による再生医療サポートシステムの構築」：再生医療分野の産業化のためには独自の技術を保有したモノづくり企業が研究や医療現場で使用する機器等へ参入することが必須である。このため、平成22年度地域イノベーション創出研究開発事業や平成23年度近畿経済産業局「地域新成長産業創出促進事業(再生医療の産業化サポート事業）等の産官学の連携による再生医療サポートシステムを構築していく。

○論文等：S. Minamoto, K. Kanazawa, H. Ashida, G. Danno and M. Natake"The Induction of Lipid Peroxidation in Rat Liver by Oral Intake of 9-Oxononanoic Acid Contained in Autoxidized Linoleic Acid" Agric. Biol. Chem. , 49, (9), 2747-2751, 1985　他多数

## 「あの人この人」④

村上学園の人材を紹介する「あの人この人」。第四回を迎えた今回は、東京オリンピック2020に向けて頑張っている村上学園の卒業生２名の紹介です。

去る二月八日、朝日新聞「オリパラ人物館」山あり谷あり編で東大阪大学敬愛高学校・東大阪大学（現ニコニコのり）した陸上競技（やり投げ）でオリンピック出場を目指す佐藤友佳選手が、また同月一五日「オリパラ人物館」ユース五輪編で東大阪大学柏原高等学校を卒業（現トナミ運輸）したバドミントンの常山幹太選手が紹介されていました。（下の写真参照）

佐藤選手は、大学卒業後小学校のスクールサポータや東大阪大学附属幼稚園勤務を経て現職。学校や幼稚園での子供の姿を見て何度も挑戦努力することの大切さを学んだということです。

一方、常山選手は、現在、世界ランキング十位。柏原高校時代は、始業前や放課後の練習前には四～五㎞ほどの走り込みを欠かさず努力を積み重ねて来ていました。男子シングルスの出場枠は二名。まだまだ厳しい選考レースが続きますが、大舞台に立つ姿を期待したいと思います。

## 目指せ！　東京オリンピック2020

卒業　東大阪大学敬愛高等学校・東大阪大学　佐藤友佳 選手
卒業　東大阪大学柏原高等学校　常山幹太 選手

## 挑戦 子どもたちに学んだ

### 陸上・やり投げ　佐藤友佳(27)

オリパラ人物館 III
山あり 谷あり編




＝ニコニコのり提供

さとう・ゆか　1992年、広島県出身。昨年６月の日本選手権で、自己ベストの62㍍88を記録して２位に。趣味は海釣り。

２年前は幼稚園職員として仕事をしながら競技を続けていた。満足に練習できず、記録も伸び悩んだ。だが後悔はない。「あの時期があったからこそ私はもっと成長できると思える」。今では世界選手権に出場するほどの選手になった。

高校でやり投げを本格的に始め、３年生で当時の高校記録を更新。だが、大学進学後は低迷した。有力な実業団の誘いはなく、卒業後は小学校のスクールサポーターに。週５日勤務の合間に練習する中、子どもたちに大きな刺激をもらった。「できない鉄棒の逆上がりに何度も挑戦する。そうしたら、いつの日かできるようになっている。忘れかけていた大事なことを教えてくれた気がした」

幼稚園勤務を経て、企業と選手をマッチングする就職支援制度アスナビを利用し、２０１８年４月からニコニコのり所属に。長期の海外合宿も行えるなど、競技に打ち込める環境が整った。昨年の日本選手権では初めて60㍍の壁を破った。

昨秋の世界選手権後、久しぶりに幼稚園を訪ねた。「（子どもの）成長が早くて、びっくり。私も頑張ろうって元気をもらえた」。まずは、五輪参加標準記録（64㍍）の突破が目標だ。

（辻隆徳）

## 父と磨いた技 桃田に匹敵

### バドミントン　常山幹太(23)

オリパラ人物館 III
ユース五輪編

つねやま・かんた　1996年、滋賀県出身。トナミ運輸所属。富山・高岡にあるインド料理店のからあげ定食が好物。

2014年ユース五輪に、東大阪大柏原高3年で出場した。バドミントン代表は、高2でA代表だった山口茜（再春館製薬所）と2人だけ。「自分だけ負けて、観客席で応援するのは嫌だな、と思っていました」

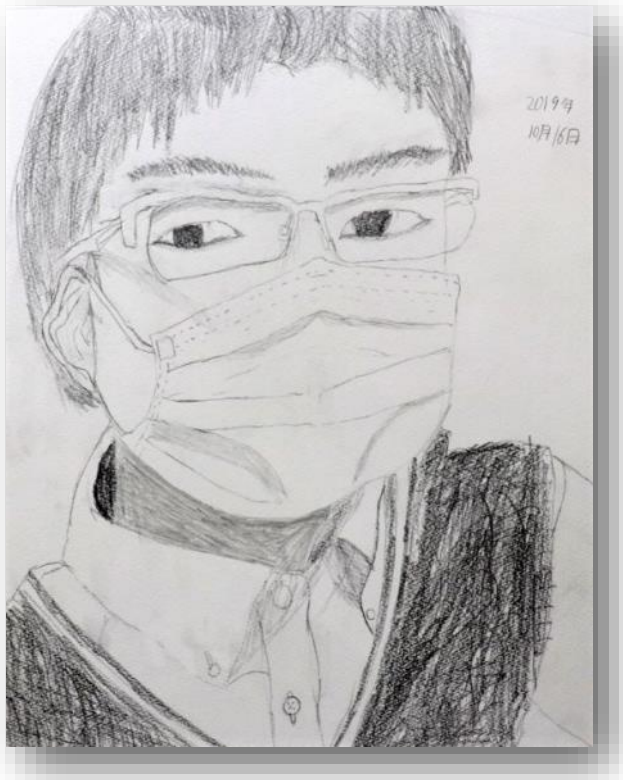
本業の男子シングルスは準々決勝敗退。ただ初対面の台湾選手と組んだ混合ダブルスで、銀メダルを獲得した。「選手村に泊まって、五輪ってこんな感じかなって思えた」

この年12月の全日本総合選手権で4強入りするなど、着実に力をつけた。現在、世界ランキング10位。男子シングルスでは桃田賢斗（NTT東日本）に次ぐ2番手だ。

両親は、実業団でプレーしたバドミントン選手。日本代表の中西洋介コーチが「シャトルを触らせたら桃田に匹敵する力がある」というラケットワークは、幼少期に父の兼二さんと磨いた。父の口癖は「自分でやるしかない」。高校時代は練習の1時間前から4～5㌔走り込んだ。「最初は親に『やれ、やれ』といわれて。言われないように考えるのが習慣になった」

五輪の男子シングルス代表は2人だけで、厳しい選考レースが続く。「自分のできることをやるだけ」。ただ、前を向いている。

（照屋健）

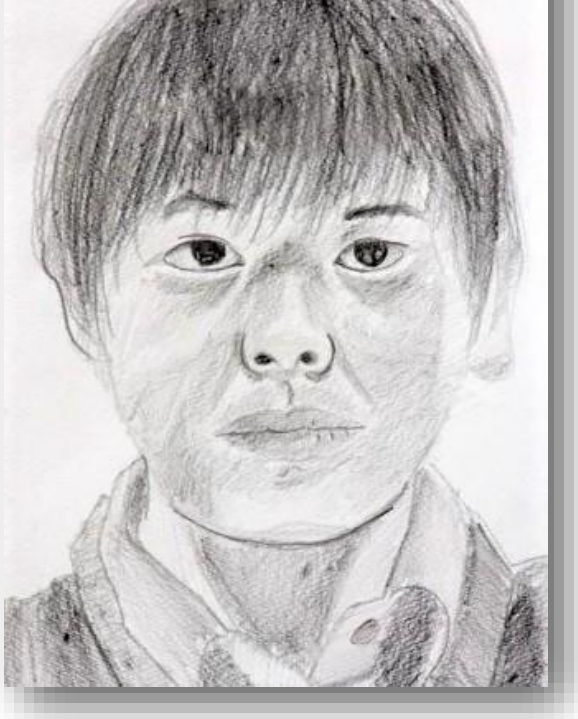


# Murakamigakuen

## 東大阪大学柏原高等学校

　東大阪大学柏原高等学校では、平成31年(令和元)度、新たに美術コースが発足し、一年が経過しようとしています。中学校の頃から美術系への進学を考えている生徒だけではなく、何となく美術や図工が好きだから等、美術に興味・関心のある生徒が入学してきています。日常の授業や美術部の活動、長期休暇中の課題などを通して自らの技量の向上に努力しています。今年度、最後の「Murakamigakuen　Art　Gallery」は、これまでの５回で紹介していない作品を紹介します。

　「最低スケッチブック一冊を仕上げるという」長期休暇中の課題作品も含まれています。授業で制作したクラスメイトの似顔絵や課題で描いた芸能人の似顔絵（誰かわかりますか？）、アニメキャラクターの模写、静物画（落ち葉）等々、多岐にわたっています。本コーナーでも紹介しました新聞紙によるフィ



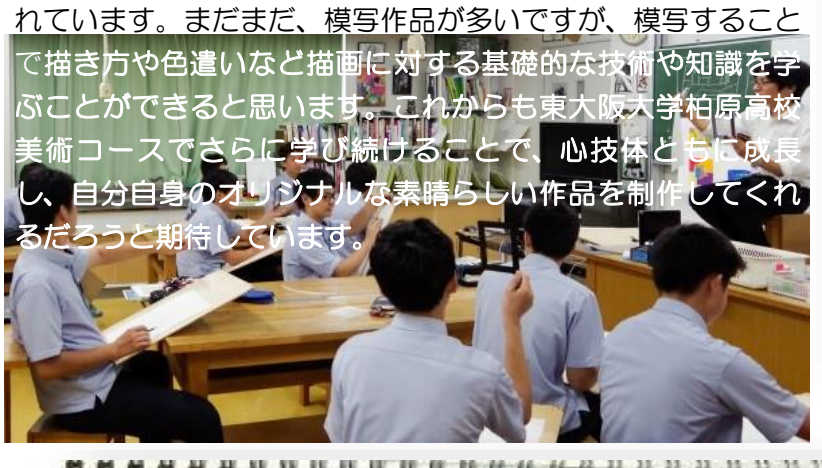
⇕左右ともに芸能人の似顔絵です。誰だかわかりますか？

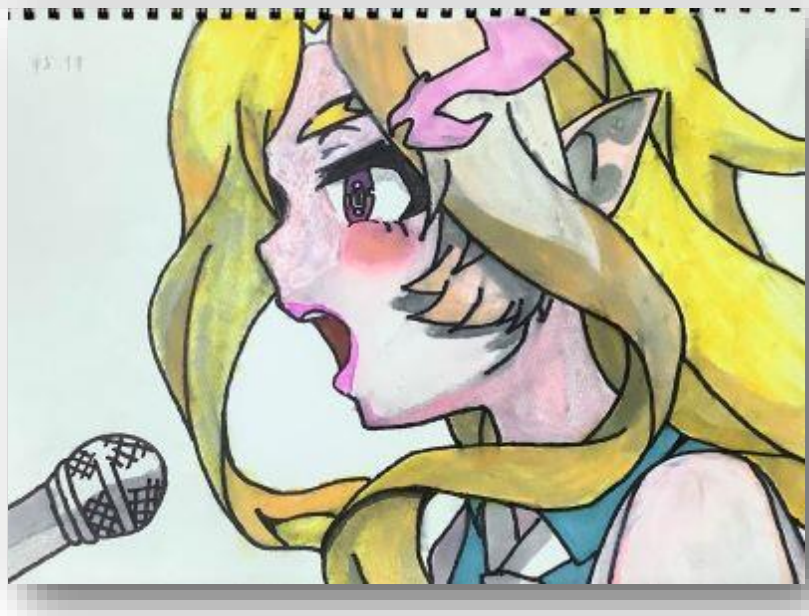
下の写真⇓　美術コースの授業風景(立体の描画)

# Art　Gallery (6)

## 美術コース（第1学年）　作品展

ギュアも、新しい作品がありましたので掲載させていただいております。制作の道具としては、鉛筆、色鉛筆、ポスターカラーや絵の具、コンピュータを使って等、多彩な方法で製作されています。まだまだ、模写作品が多いですが、模写することで描き方や色遣いなど描画に対する基礎的な技術や知識を学ぶことができると思います。これからも東大阪大学柏原高校美術コースでさらに学び続けることで、心技体ともに成長し、自分自身のオリジナルな素晴らしい作品を制作してくれるだろうと期待しています。





# 最後の参観（年長組）を行いました

参観日のオープニング、年長組さん全員による合奏

一二月一三日（木）幼稚園での最後の参観日となりました。朝から大勢の保護者の方々が来園してくださり、我が子の園での活動の一端をご覧いただきました。

参観日のオープニングに先立ち、園長先生から挨拶と年長組さん合同での合奏を行う旨の説明がありました。

体育館には、最後の参観ということで、大勢の保護者の方々が来られていました。体育館に入って、保護者の多さに驚く子や、にこっと笑顔になる子などいろいろなリアクションが見られた入場でした。

演目は、「ラデッツキー行進曲」。年長組さん全員での演奏で、とても迫力があり、日ごろの練習の成果を思う存分発揮できていたと思います。大変上手に演奏できていました。演奏が終わると参観の保護者から大きな拍手が沸き起こりました。

その後、各部屋に戻り、朝のうた『おはよう』を歌って『お当番発表』をして～『たいせつなたからもの』を歌って～『たんぽぽ』を歌って～今日に向けての取り組みをご覧いただきました。

つづいて『お作法親子体験』です。まずは靴を脱ぎます。靴を揃えて並べます。入室前に姿勢を正します。入室し、保護者の方と向かい合わせになりましたら準備完了。春の親子参観で制作しました手作りお茶碗を初使用です。お茶をこぼさないように、お茶碗を割らないように、そろりそろりと歩く姿がかわいかったです。

保護者の方も茶菓子を分けることはできたでしょうか？　こどもたちは、五回のお作法で学んだことを、保護者の皆さんの前で表現できていましたでしょうか？とっても楽しく、仲睦まじく過ごされている様子を見ることができ、大変心が温かくなりました。

最後に『コサージュ製作』をしていただき、参観を終わりました。

演奏後、部屋に戻って歌の披露

各自制作した手作りお茶碗での
「お作法親子体験」の様子

親子でコサージュ制作風景

# 「伊勢徒歩旅行」に参加して
## ～参加者・保護者アンケートより～

東大阪大学柏原高等学校で隔年実施されている「伊勢徒歩旅行」。今年度は実施年であり、年末の１２月１９日（木）～２２日（日）の３泊４日で行われたことは、前回のNEWS（第６号）でお知らせしたとおりです。この行事は、東大阪大学柏原高等学校の伝統ある特色のある行事となっています。生徒の頑張りもさることながら、それを支えている教員の努力も大変なものです。それらの中で、一人の落後者も出さず、１３０㎞を全員無事完歩できました。

今号では、参加者及び保護者のアンケートや感想等がまとめられましたので、全ての掲載はできませんが、紹介させていただきます。

**◎参加者（生徒）のアンケート**

**・日程について**

「肯定的な意見が多数有り」「無理なく程良い距離であった」「四日間、短く感じた」

**・食事について**

「３日間とも好評」「質量ともに良かった。バーベキューは最高」「とても満足している」多数あり

**・歩いている時**

「しんどかったけれど、歩いていくうちに頑張る意識が高くなったので、良かったと思う」「一日目は帰りたいと思いました。二日目～四日目は、休憩まだかなー、旅館まだかなーと思い歩いていました」「みんなでしゃべりながら楽しく歩けたと思います」「とても足が痛かった」等

**◎楽しかったこと・うれしかったこと**

「うれしかったことは、最後までめげずに完歩したことです。楽しかったことは、もう言い切れないほど全部楽しかった」「何もかも楽しかった。友人との思い出が増えとてもうれしかった」等

**◎苦しかったこと・つらかったこと**

「自分に体力がなさすぎたこと、足の痛み」「足がつったり、筋肉痛で足が痛かったこと」「一日目は帰りたいと思いました。一日目の夜に先生の言葉で救われました。二日目・三日目が特にしんどかった・足を引きずりながらでも頑張った」等

**◎その他**

「正直、体力には自信がなかった。大丈夫かなあと思い心配した・でも先生や三年生に支えてもらい無事完歩できたと思う」「足をつりながらも完歩できたので、すごくうれしい」「みんなで完歩できてよかったです」等

**◎保護者のアンケートより**

「ツイッターで写真を拝見させていただいておりました。元気な様子をみていて、一日一日がアッという間でした。昼食や休憩、随所に安全配慮があり、素晴らしい行程でした。下見など大変だったと思います」「みんなで同じものを食べたり、各自、自由なものを選んで食べたりで良いなと思います。費用も含まれていて安心でした。みんなの好きそうなメニューだし、少し足りなさそうな時は、夜食も出してくださったり良いですね。クリスマスパーティーも良かったです」「ほぼ寝るだけの素泊まりみたいなのかなと思っておりましたが、とても素敵なホテルや楽しげなロッジやら、清潔で食事も良いものをありがとうございます。温泉宿に行っていますネ。最後の夜は個室で気を遣わず、ゆっくりできたみたいです」「温泉で疲れをとれてよいです思います。子どもたちの最後までやり切ろうという精神面も鍛えられると思います」「帰ってきてから、前より前向きになった気がします。決して楽ではなかったし、しんどい時もあったと思いますが、友達や先生のお陰でやり切れたと思います。この**経験は一生の宝物**だと思います」

## ★編集後記

令和元年度も最終月になりました。今、社会は令和二年になり世界的規模で拡散している新型コロナウィルスによる肺炎の蔓延で、国内においても感染者の増加や拡散防止のためのイベント等の自粛、全国の学校臨時休業措置等、様々な対応がなされています。一方、ＳＮＳでのフェイク情報の拡散によりオイルショックを彷彿とさせるトイレットペーパ等紙製品の買いだめ騒動、マスクのネット通販での高額販売等、現政治状況を含め社会の成熟度（人の心）が試されているように感じるのは私だけでしょうか。日々感染者が増加する中、終息に向けてはまだまだ予断を許さない状況が続いています。皆様方におかれましては、密閉空間等への不要不急の外出を避け、日々健康にご留意されますよう願っております。

さて、令和元年度の最終号ですが、「東大阪大学・短期大学部卒業研究発表会」と「東大阪大学柏原高等学校美術コース作品展」の二つを特集記事として掲載いたしました。卒業研究発表会は、一月末から二月初旬にかけ、各学科ごとに開催されました。四年間で、あるいは二年間で研究してきた成果の発表で、どれも力作ぞろいです。また、東大阪大学柏原高等学校美術コースは、今年度新設されたコースで一年間の歩みを、制作した作品を紹介することで振り返ってもらおうと思いました。紙面の関係ですべてを紹介することはできませんが、掲載されていない作品も丁寧に制作されています。機会があれば紹介させていただきます。

来年度におきましても「村上学園ZMVS」を継続して発刊いたします。掲載記事につきましては、これまで以上に各所属で実践している教育内容について紹介し、読者の皆様に、村上学園へのご理解につなげたいと思っております。これまでのご愛読に感謝申し上げますとともに引き続きご愛読いただきますようお願いいたします。

（編集者　寺川誠）

https://murakamigakuen.jp/